

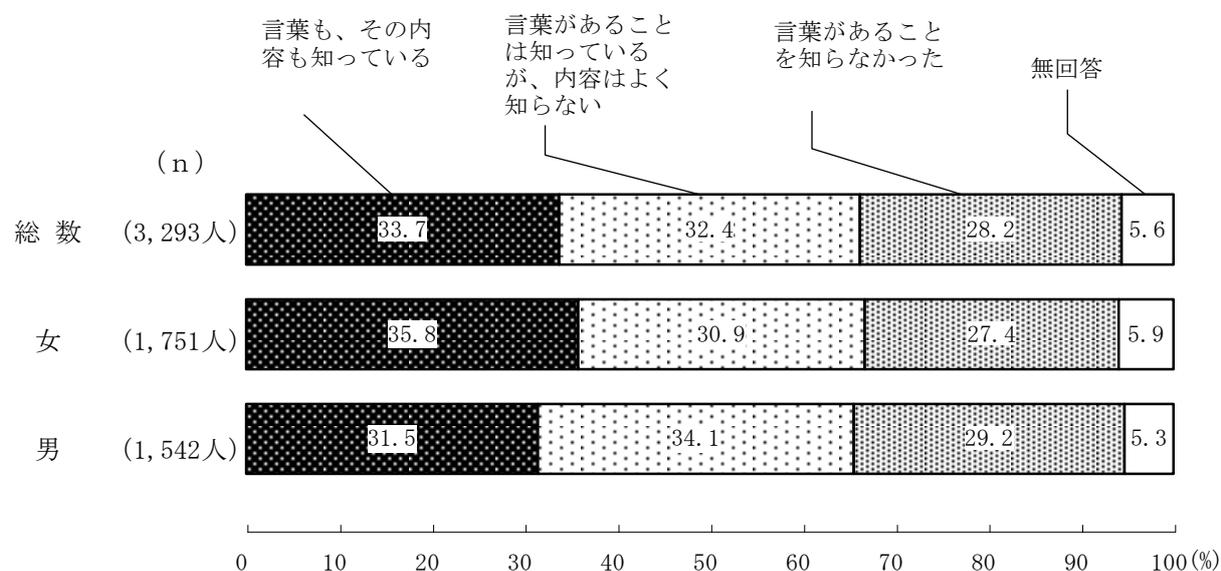
4 交際相手からの被害経験

(1) 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度

「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について知っているか聞いたところ、「言葉も、その内容も知っている」が33.7%、「言葉があることは知っているが、内容はよく知らない」が32.4%で、これらを合わせると6割を超えている。（図4-1-1）

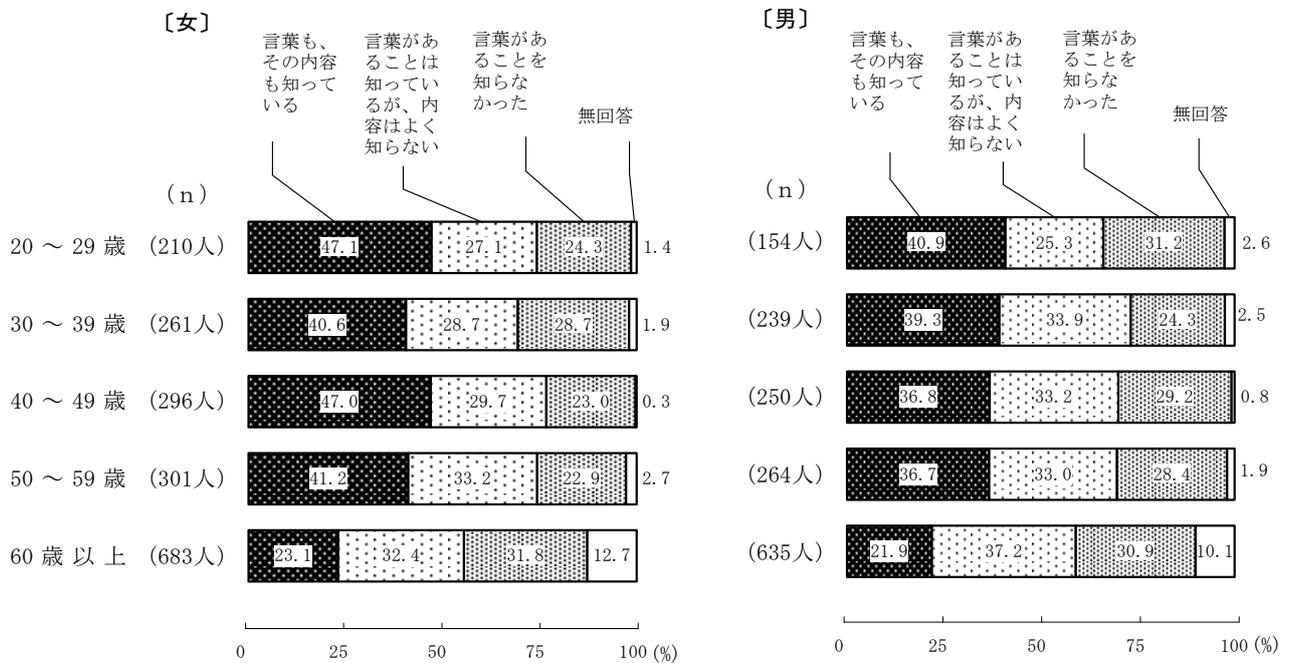
問12 あなたは、「交際相手からの暴力」（いわゆる「デートDV」）について、知っていますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図4-1-1 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度



性・年齢階級別にみると、「交際相手からの暴力（デートDV）」について、「言葉も、その内容も知っている」が、20歳代から50歳代までの年齢階級で女性は4割を超えていて、男性は3割台後半から4割となっている。（図4-1-2）

図4-1-2 「交際相手からの暴力（デートDV）」の認知度（性・年齢階級別）



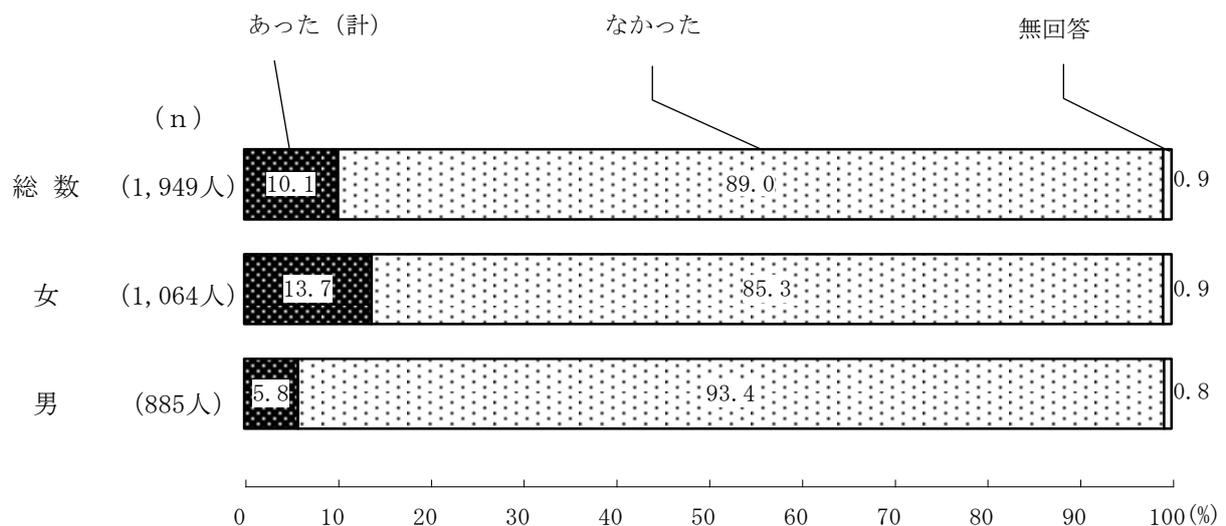
(2) 被害経験の有無

10歳代から20歳代の頃に、「交際相手がいた（いる）」という人（1,949人）に、“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”の3つの行為をあげて、当時の交際相手から被害を受けたことがあるかをそれぞれの行為について聞き、いずれかについて交際相手から被害を受けたことがある人（「10歳代にあった」もしくは「20歳代にあった」のいずれかを回答した人の計）をまとめた。

当時の交際相手から“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のいずれかの被害を受けたことが『あった』が10.1%で、女性が13.7%、男性が5.8%となっている。（図4-2-1）

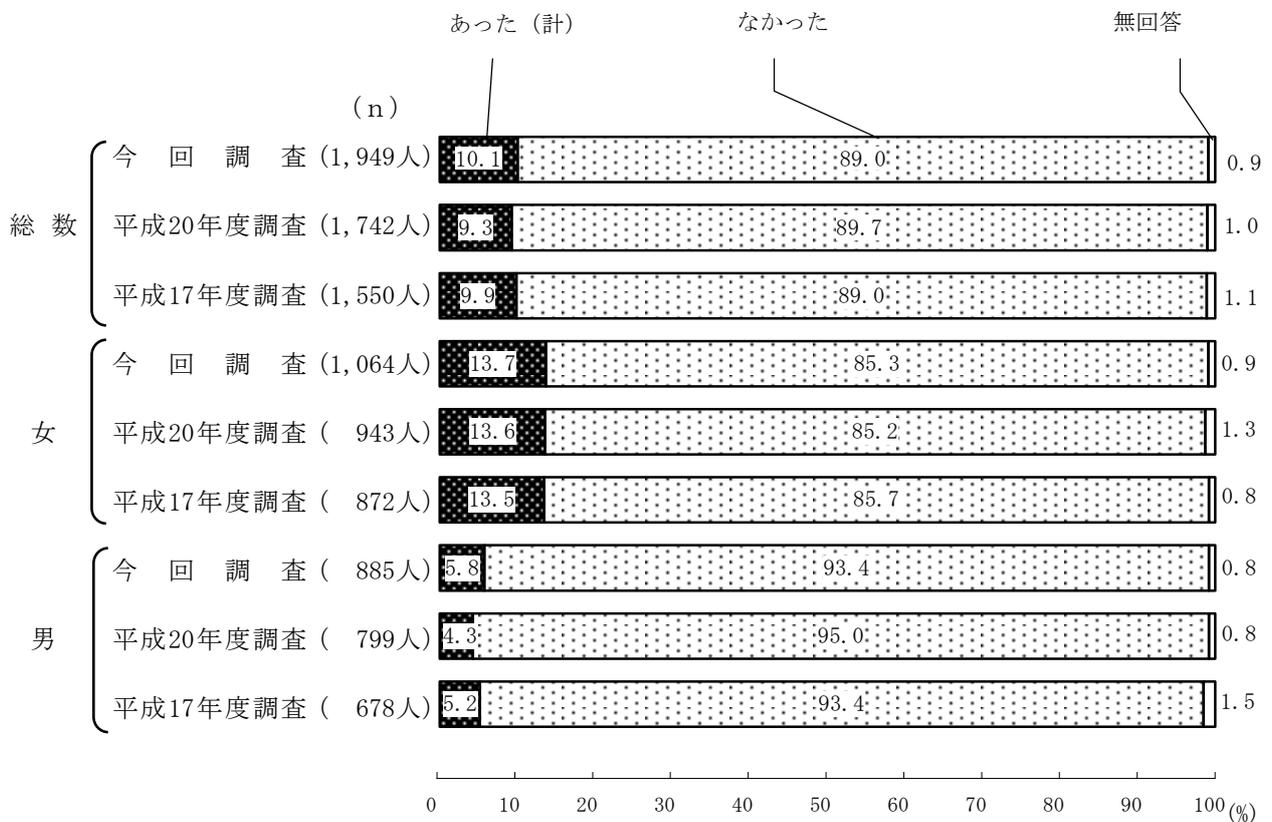
【問13で「1 交際相手がいた（いる）」と答えた方にお聞きします。】
 問14 あなたは、10歳代、20歳代に、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。
 A～Cのそれぞれについて、あてはまる番号すべてに○をつけてください。
 （○はいくつでも）

図4-2-1 交際相手からの被害経験の有無



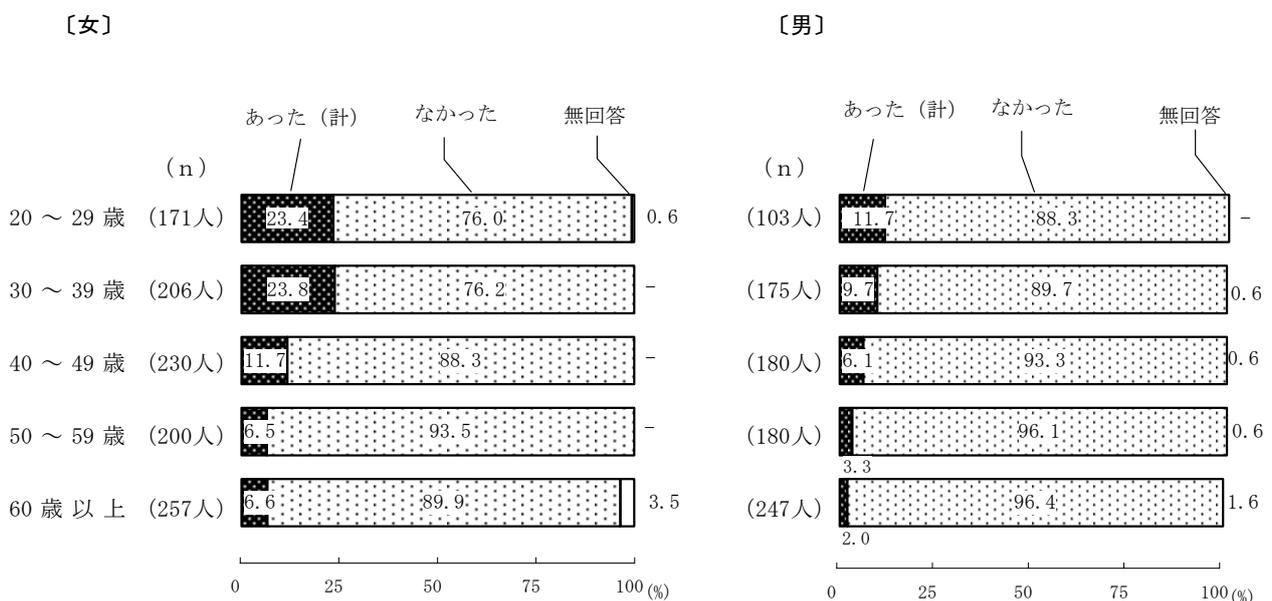
交際相手からの被害経験の有無を男女別に時系列比較でみると、平成 17 年度調査以降、大きな変化はみられない。(図 4-2-2)

図 4-2-2 交際相手からの被害経験の有無(男女別) - 時系列比較



さらに性・年齢階級別にみると、男女とも年齢階級が低いほど被害経験が多く、特に、女性の 20 歳代から 30 歳代では 2 割を超えている。(図 4-2-3)

図 4-2-3 交際相手からの被害経験の有無(性・年齢階級別)

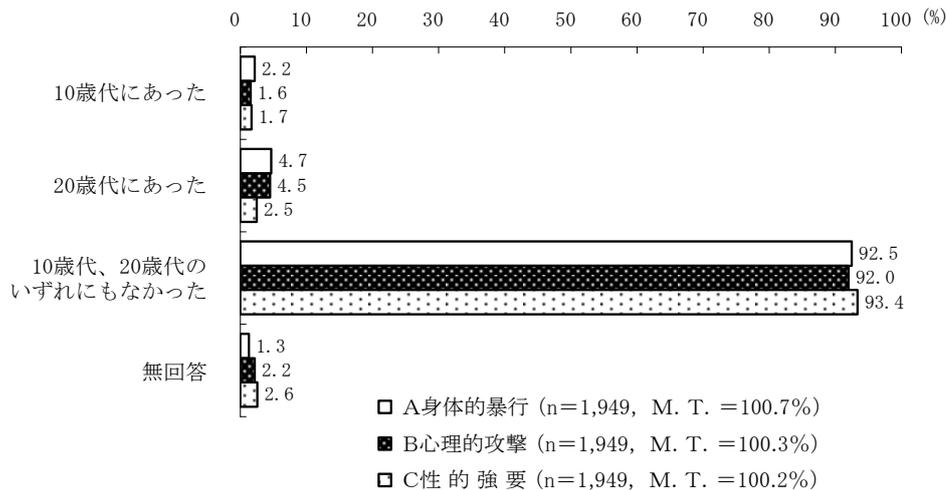


“身体的暴行”“心理的攻撃”“性的強要”のそれぞれをみると、“身体的暴行”が「10歳代にあった」が2.2%、「20歳代にあった」が4.7%となっている。

“心理的攻撃”は「10歳代にあった」が1.6%、「20歳代にあった」が4.5%となっている。

“性的強要”は「10歳代にあった」が1.7%、「20歳代にあった」が2.5%となっている。(図4-2-4)

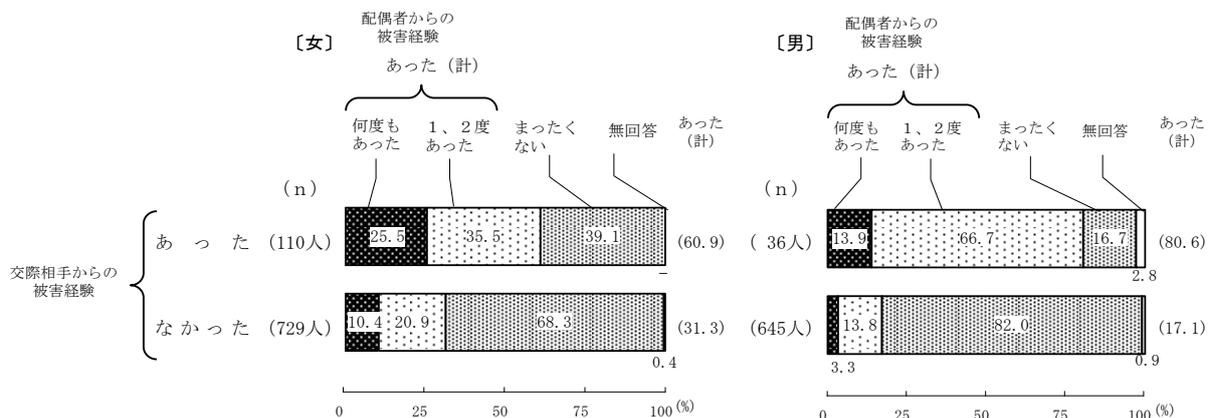
図4-2-4 交際相手からの被害経験(複数回答)



- A なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行を受けた
- B 人格を否定するような暴言や交友関係を細かく監視するなどの精神的な嫌がらせを受けた、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫を受けた
- C いやがっているのに性的な行為を強要された

交際相手からの被害経験の有無別に、配偶者からの被害経験の有無をみると、女性で交際相手からの被害経験がある人(110人)では、配偶者からの被害経験もある人が60.9%となっているのに対し、交際相手からの被害経験のない人(729人)では、配偶者からの被害経験がある人が31.3%となっている。(図4-2-5)

図4-2-5 配偶者からの被害経験の有無(性・交際相手からの被害経験の有無別)



(3) 被害を受けたときの行動

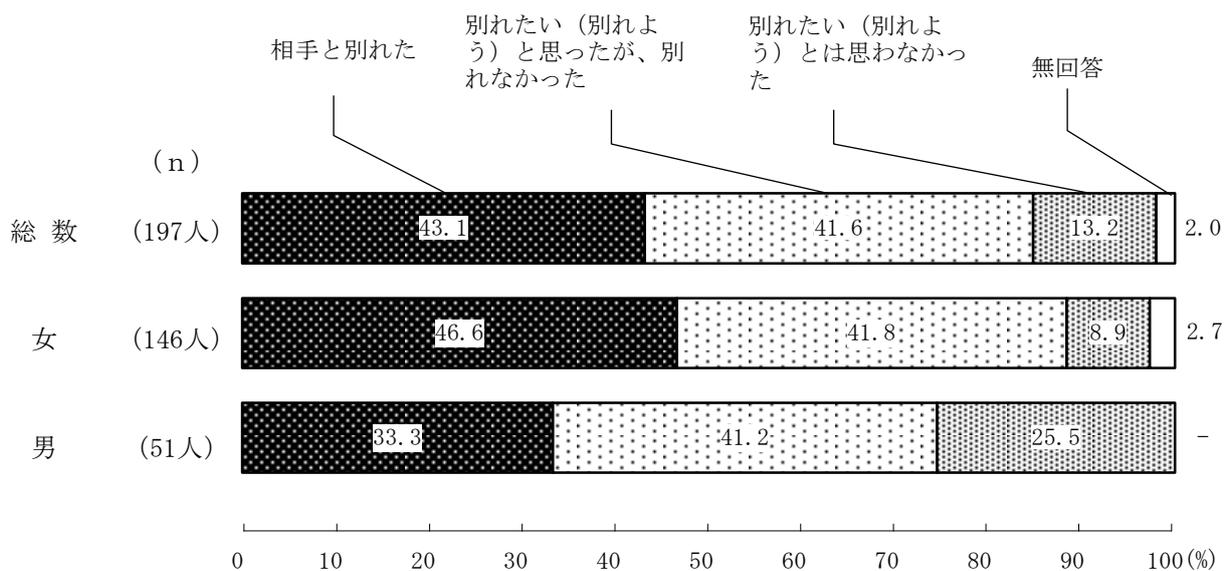
10歳代から20歳代の頃に、交際相手から被害を受けたことがある人（197人）に、被害を受けたときどうしたかを聞いたところ、「相手と別れた」が43.1%、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が41.6%となっている。

男女別にみると、「別れたい（別れよう）と思ったが、別れなかった」が、男女とも4割を超えている。（図4-3-1）

【問14でA～Cのうち1つでも、「1 10歳代にあった」「2 20歳代にあった」と答えられた方にお聞きします。問14でA～Cのすべてが、「3 10歳代、20歳代のいずれにもなかった」という方は9ページの問21にお進みください。】

問15 あなたは、交際相手からそのような行為を受けたとき、どうしましたか。
あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図4-3-1 交際相手から被害を受けたときの行動

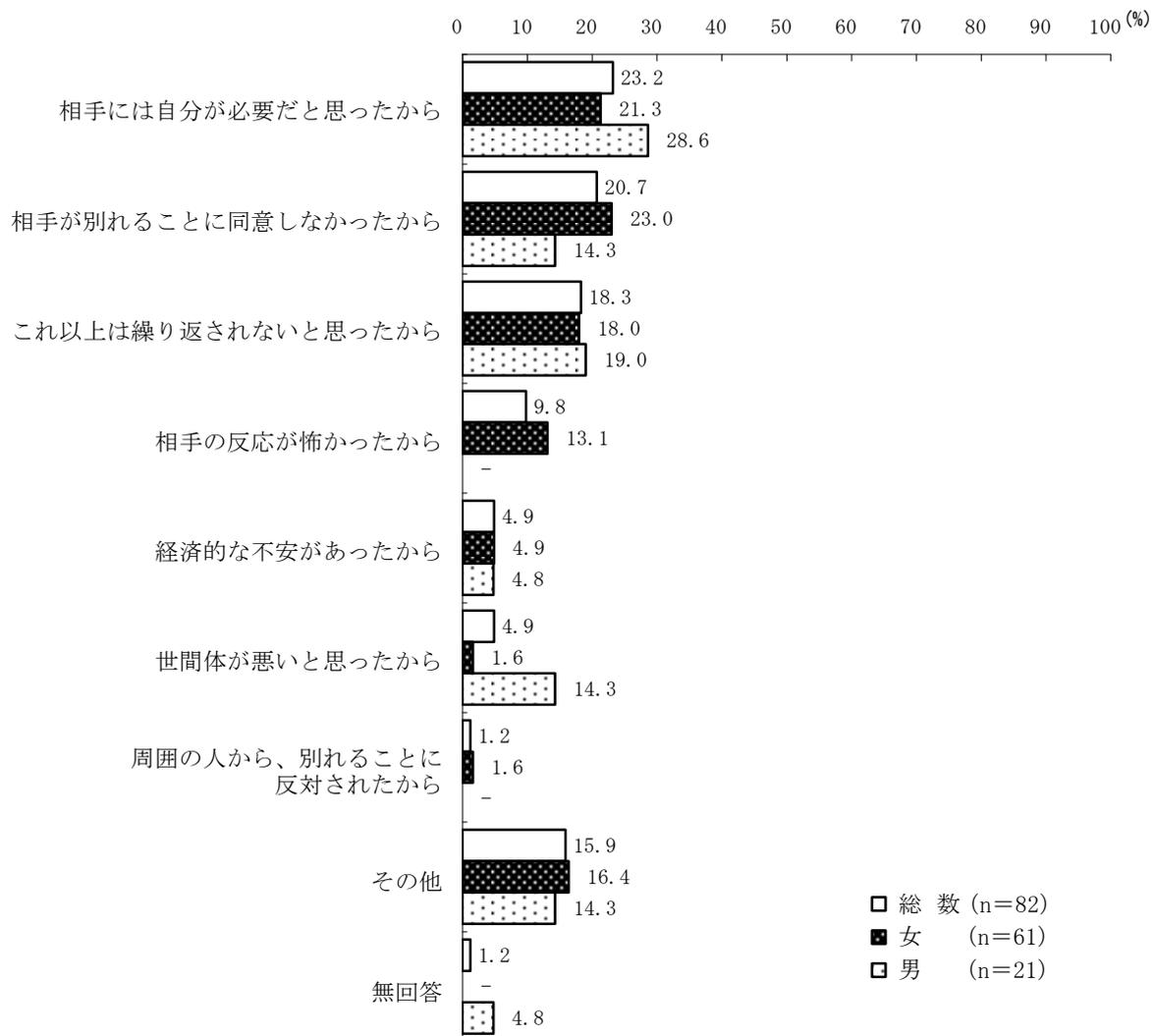


(4) 別れなかった理由

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から被害を受けたとき、「別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」という人（82人）に、その理由を聞いたところ、「相手には自分が必要だと思ったから」が23.2%、「相手が別れることに同意しなかったから」が20.7%、「これ以上は繰り返されないと考えたから」が18.3%などとなっている。（図4-4-1）

【問15で「2 別れたい（別れよう）」と思ったが、別れなかった」と答えた方にお聞きします。】
 問16 あなたが、相手と別れなかった最も大きな理由は何ですか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図4-4-1 交際相手と別れなかった理由

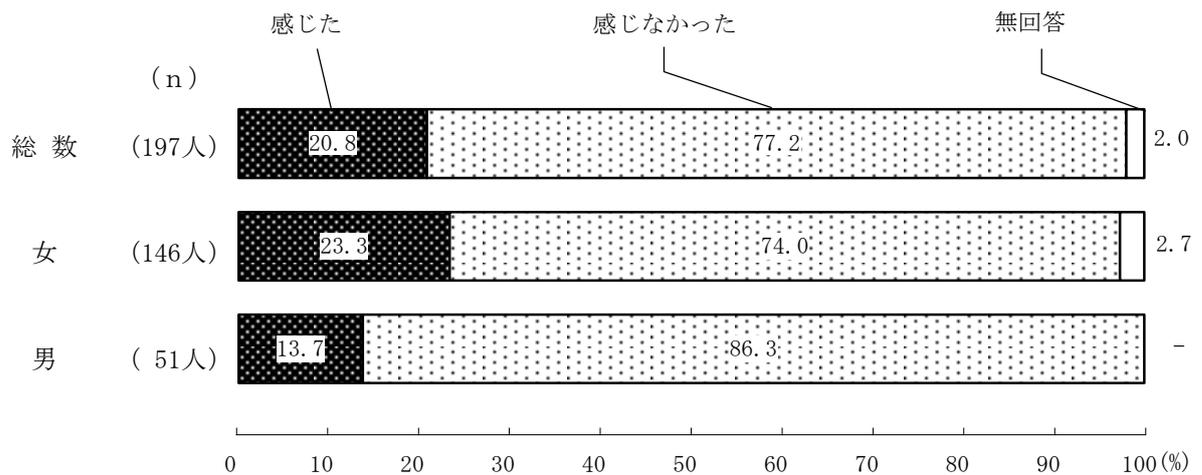


(5) 命の危険を感じた経験

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から被害を受けたことのある人（197人）に、その行為によって命の危険を感じたことがあるかを聞いたところ、「感じた」は20.8%であり、女性が23.3%、男性が13.7%となっている。（図4-5-1）

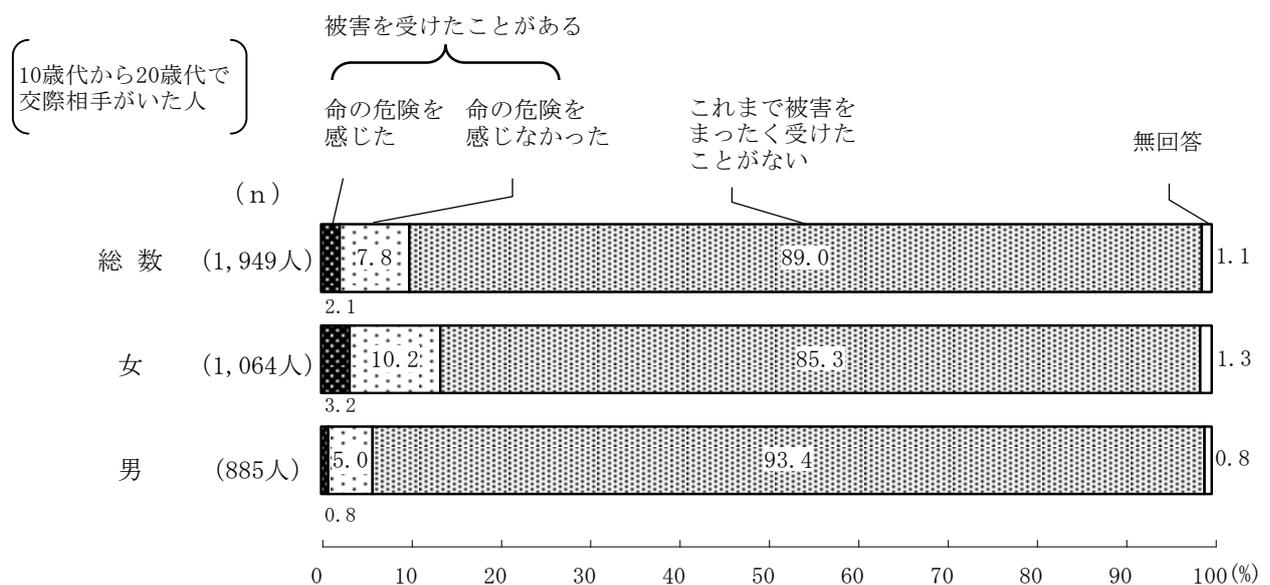
【交際相手から、問14のA～Cの行為を受けたことがある方すべてにお聞きします。】
 問17 あなたは、交際相手から受けたそのような行為によって、命の危険を感じたことがありますか。あてはまる番号1つに○をつけてください。（○は1つ）

図4-5-1 交際相手からの被害により命の危険を感じた経験



交際相手からの被害を受けたことがない人も含め、10歳代から20歳代の頃に、「交際相手がいた（いる）」という人（1,949人）でみると、命の危険を「感じた」は2.1%であり、女性が3.2%、男性が0.8%となっている。（図4-5-2）

図4-5-2 交際相手からの被害により命の危険を感じた経験

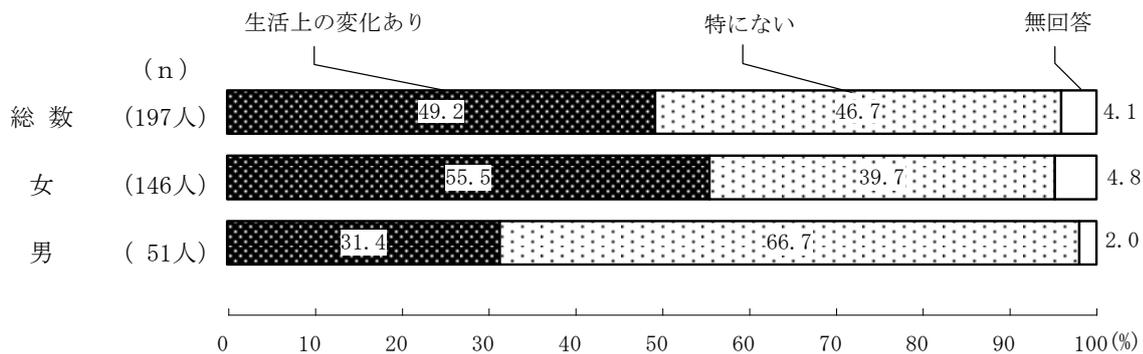


(6) 生活上の変化

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から被害があった人（197人）に、被害によって引き起こされた生活上の変化を聞き、何らかの変化があったと回答した人を「生活上の変化あり」としてまとめた。『生活上の変化があった』は49.2%で、女性が55.5%、男性が31.4%となっている。（図4-6-1）

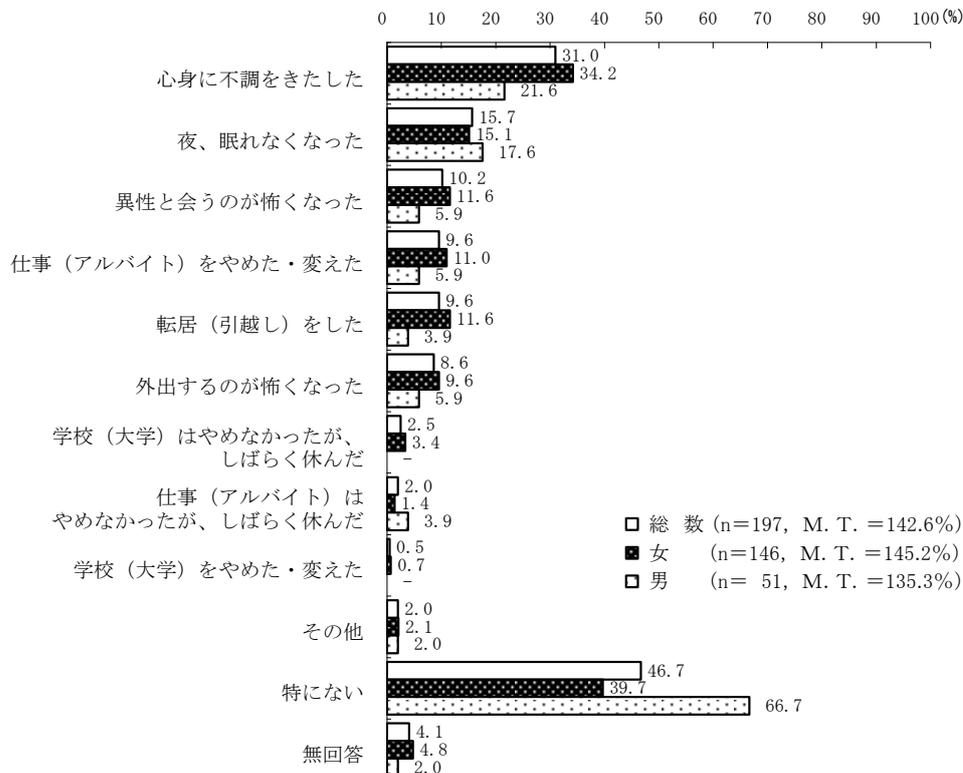
問 18 あなたは、交際相手から受けたそのような行為によって、生活上の変化がありましたか。
あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-6-1 交際相手からの被害による生活上の変化の有無



実際の生活上の変化の内容をみると、男女とも「心身に不調をきたした」が最も多くなっている。（図4-6-2）

図4-6-2 交際相手からの被害による生活上の変化（複数回答）



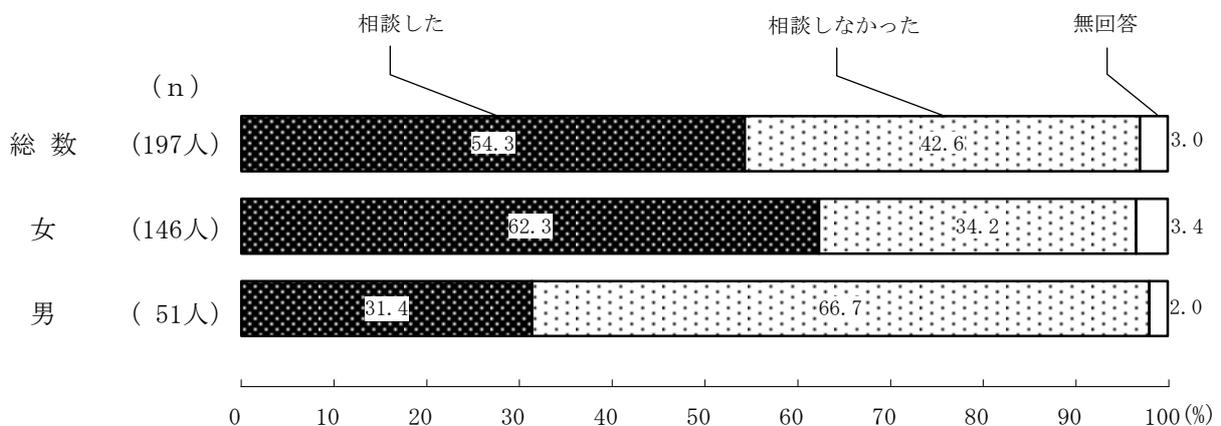
(7) 被害の相談先

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から被害があった人（197人）に、被害の状況について、誰かに打ち明けたり、相談したりしたかを聞き、いずれかの相談先を回答した人の合計を「相談した」とまとめた。

「相談した」は54.3%であり、女性が62.3%、男性が31.4%となっている。（図4-7-1）

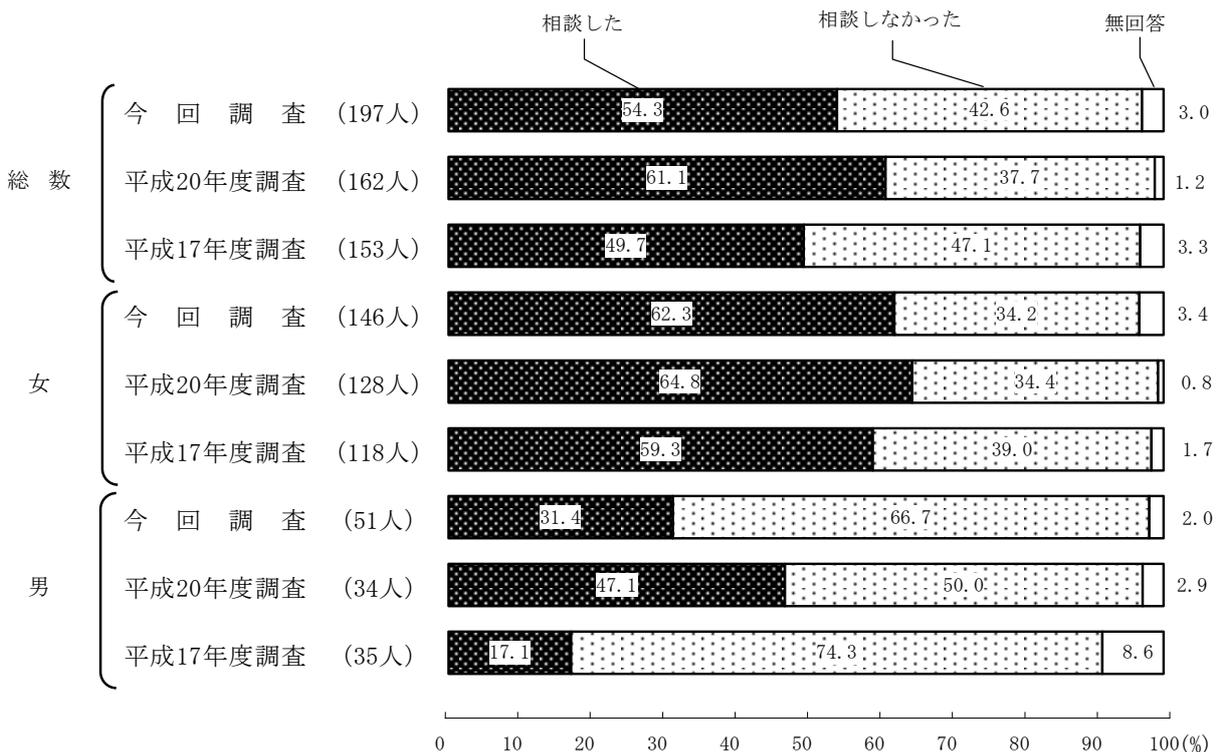
問19 あなたは、10歳代、20歳代に交際相手から受けたそのような行為について、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-7-1 交際相手からの被害の相談の有無



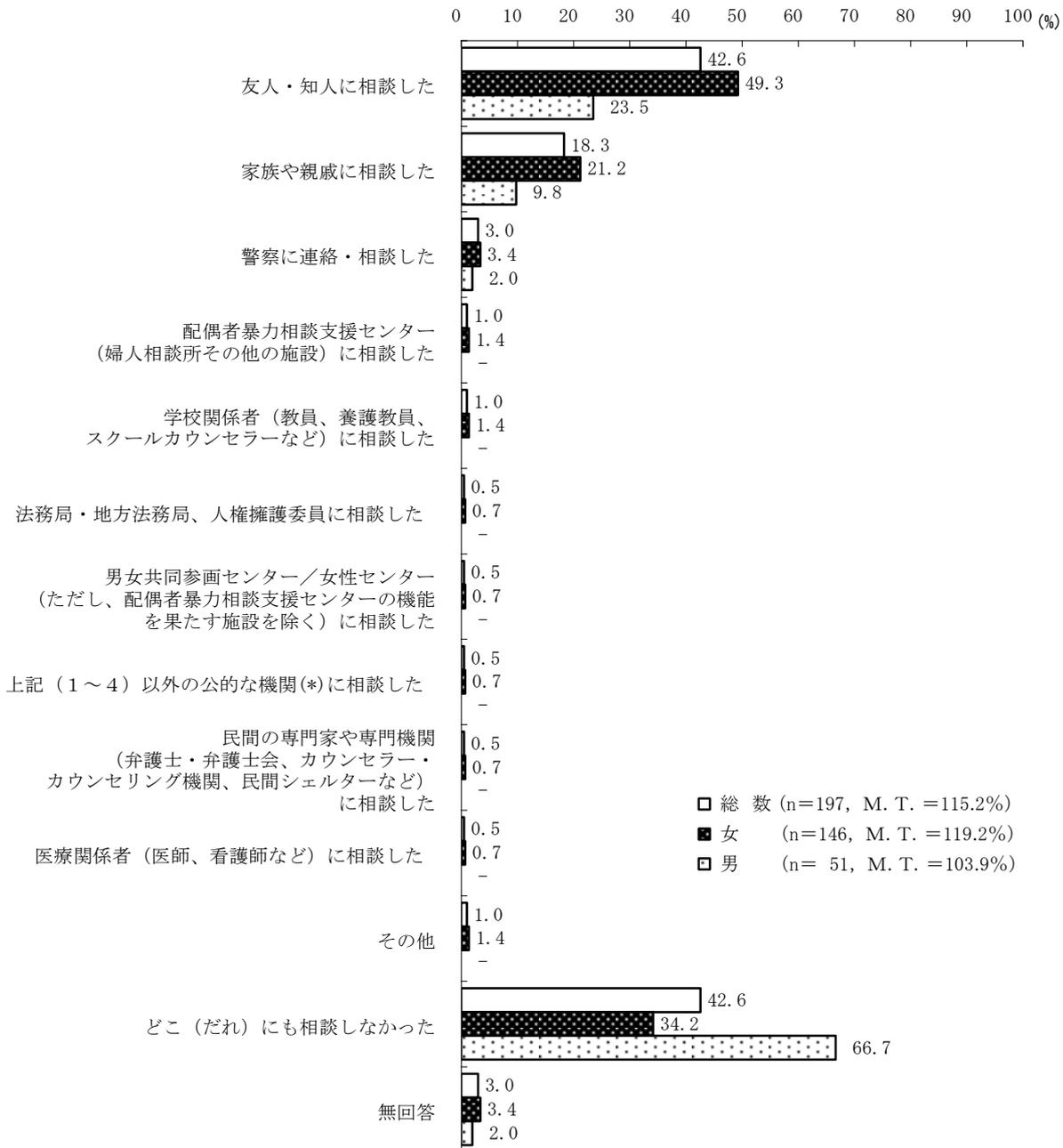
時系列比較でみると、相談の有無に大きな変化はみられない。（図4-7-2）

図4-7-2 交際相手からの被害の相談の有無 — 時系列比較



相談先をみると、男女とも「友人・知人に相談した」が最も多く、次いで「家族や親戚に相談した」となっている。(図 4-7-3)

図 4-7-3 交際相手からの被害の相談先(複数回答)



*「上記(1~4)以外の公的な機関」とは、下記以外の公的な機関を指す。

1. 配偶者暴力相談支援センター(婦人相談所その他の施設)
2. 警察
3. 法務局・地方法務局、人権擁護委員
4. 男女共同参画センター/女性センター(ただし、配偶者暴力相談支援センターの機能を果たす施設を除く)

(8) 相談しなかった理由

10歳代から20歳代の頃に、交際相手から受けた被害について、「どこ（だれ）にも相談しなかった」という人（84人）の理由をみると、「相談するほどのことではないと思ったから」が46.4%、次いで「自分にも悪いところがあると思ったから」が32.1%、「相談してもむだだと思ったから」が23.8%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が22.6%などとなっている。（図4-8-1）

【問19で「12 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方にお聞きします。】
 問20 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

図4-8-1 交際相手からの被害を相談しなかった理由（複数回答）

